

# みなみ minami

2017年 秋号

発行：独立行政法人国立病院機構

熊本南病院

熊本県宇城市松橋町豊福2338



熊本県 阿蘇

## ご挨拶

国立病院機構 熊本南病院 院長 金光敬一郎



今年もはや半分過ぎましたが、熊本地震の影響も漸く薄らいできて、通常の診療に打ち込むことができるようになってまいりました。まだ地盤沈下の部分の修復はかないませんが、細かなところがまた目立ってきて、修復を行う業者がない状況です。入院外来の診療機能にはなんら問題ありません。昨年開設しました緩和ケア病棟も、順調に進んでまいりました。月曜日、木曜日の午後の緩和外来の予約で入院の説明を行っていましたが、時間的に急がれる場合もあり、まず連携室に電話及び情報をいただければ、一番近い日時で予約を調整設定させていただいております。気軽にご紹介ください。今年の夏はこのほか暑さが厳しく、夏が過ぎるとすぐに寒くなるという気候で、体調を崩さぬように努めておりますが、皆様はいかがでしょうか。ご自愛のほどお願いします。気持ちの良い秋が来るのでしょうか。少し心配です。このまま冬に突入でしょうか。患者様の体調に気をつけながら、心の通った診療に努めてまいります。

さて、この春熊本南病院に着任されて、早速フル稼働で働き始められている先生方をご紹介しますとともに、診療科がこの10月から増え、総合診療内科医師が着任いたしました。

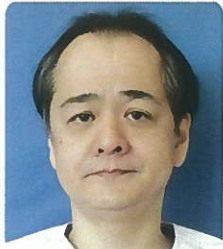
紹介のコーナーでご案内申し上げます。

今後とも何卒よろしく申し上げます。



平成 29 年度も新しい先生が赴任されました。ご紹介申し上げます。

## 内科 (代謝内科)



**野田 秀幸 (ノダ ヒデユキ)**

》内科医長

》平成 9 年 3 月熊本大学医学部卒業

》専門分野 代謝内科 / 内分泌内科

》外来診療日 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日

糖尿病領域の診断加療を主に行い、甲状腺機能亢進症、機能低下症など内分泌疾患の診断治療を専門に行います。

生活習慣病などの治療、指導も行い、幅広い臨床経験を有しています。

前任地は人吉医療センターで、糖尿病の教育入院など積極的に地域全体の糖尿病の予防についても啓蒙してまいりました。この地元でも積極的に啓蒙活動も含めて糖尿病の診断治療に努めてまいりたいと思います。

気軽にご紹介下さい。疾患が安定するまで、加療を行い、安定したところで紹介いただいたかかりつけの先生のところでの経過観察という方法で、地域貢献を行ってまいりたいと存じます。

何卒よろしく申し上げます。

## 循環器内科



**福田 仁也 (フクダ マサヤ)**

》循環器内科医長

》平成 12 年熊大医学部卒業 医学博士

》専門分野 循環器内科

》外来診療日 火曜日・水曜日・木曜日

前任地は熊本市民病院でした。心不全、高血圧、心疾患を中心に診断加療を行ってまいります。高齢者の心不全など経験が豊富で、この経験を生かして地域貢献を行ってまいりたいと存じます。

急性の心疾患は高次救急病院との連携も行い、その治療につなげてまいります。患者さまのご紹介をよろしく申し上げます。

## 神経内科



山下 哲司 (ヤマシタ テツジ)

» 神経内科医師

» 平成8年熊本大学医学部卒業 医学博士

» 専門分野 神経内科一般 (神経難病疾患 その他)

» 外来診療日 火曜日 (再診)・木曜日午後 (新患)・金曜日 (新患)

平成26年に1年間、熊本南病院に勤務しておりました。前任地は国立病院機構熊本再春荘病院で、神経難病疾患を中心に担当し、神経難病であるALS、パーキンソン病などの診断治療を行ってきました。急性期を過ぎた (TPA治療の適応のない) 脳梗塞、頭痛、物忘れなども診断してまいりたいと存じます。

患者さまの紹介よろしくお願ひします。

## 総合診療内科



花岡 伸佳 (ハナオカ ノブヨシ)

» 総合診療科医長

» 平成10年熊本大学医学部卒業 医学博士

» 専門分野 総合内科 / 血液内科

» 外来診療日 月曜日・火曜日・木曜日

前任地は、鹿児島徳洲会病院で、平成29年10月1日から勤務しております。

地域医療、僻地医療の経験が豊富で、専門領域が不確かな患者さまの診断加療を担当します。頭痛から麻痺、消化器症状までまず診察、検査診断し、専門医と共同で加療してまいります。

プライマリーケアで、地域貢献に努めてまいりたいと存じます。

患者さまの紹介よろしくお願ひします。







8月25日（金）14:00から恒例のサマーコンサートがリハビリ室にて開催されました。

今年も、豊福小学校の吹奏楽部4～6年生、総勢24名により迫力ある演奏をしていただきました。2017年に公開されたアニメ映画「君の名は」の主題歌や、童謡などの演奏、アンコールではGReeeeNの「キセキ」を演奏されました。また、小学4年生の子どもたちが演奏の音に合わせて歌ったり踊ったりと、とても素晴らしいサマーコンサートとなりました。

各病棟から多くの患者さんやその家族など、約30名の皆様が演奏を聴きにいられていました。演奏中は、手拍子や音楽に合わせて歌ったり身体を動かしたりと、楽しんでいる姿がありました。また、患者さんの中には感動して泣いている方もおられました。

吹奏楽部の皆さんが一生懸命演奏している姿からは、聴いている人に

楽しんでもらいたいという思いが伝わり、小学生の演奏する姿や患者さんやその家族が楽しそうに演奏を聴く姿を間近で感じ、開催して良かったと心から思いました。来年も多くの患者さんから笑顔がみられ、感動的なサマーコンサートを企画したいと思いました。



## 診療科紹介 放射線科

当院放射線科は、診療放射線技師4名、看護師1名で検査業務を行っています。検査装置は、一般撮影装置・乳房撮影装置・X線TV装置・CT装置・MRI装置などを保有しています。

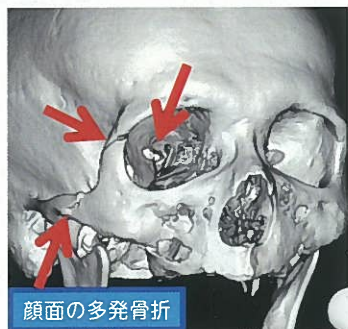
今回はCTでの骨折の診断や血管の描出、MRIを用いた物忘れ検査（認知症検査）及びMRCPについて紹介します。はじめに、骨折の診断では、一般撮影では判断できない骨折の評価に、CT撮影を行うことで微細な骨折まで診断が可能です。また、血管の描出では、造影剤を使用して画像を処理し、腫瘍を取り巻く血管を描出することが可能です。

次に、物忘れ検査（認知症検査）では、MRIで記憶を司る海馬やその周囲の組織の萎縮を調べ、認知症の程度を簡単に数値化できるため、スクリーニング検査として広く利用されています。MRCPとは、MRIで胆嚢や総胆管、膵管を同時に描出する検査で、造影剤を使用せずに検査でき、胆石や総胆管結石、膵管、膵臓の嚢胞性腫瘍の描出に優れています。

上記で紹介した検査以外にも検査を行っており、CT検査とMRI検査のそれぞれの特徴を生かし、病気の診断に役立つ最適な画像を提供しています。

また、当科では、開業医の先生方からCT検査やMRI検査のご依頼を直接電話で受け付けるダイレクトインシステムを導入しており、地域の先生方と密接に連携した取り組みを行っています。

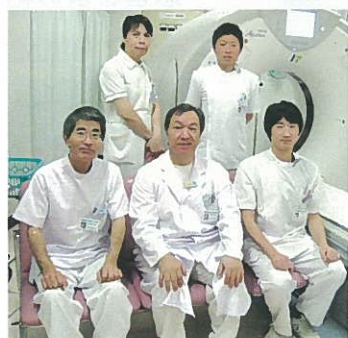
これからも、診療に役立つ画像を提供してまいりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



顔面の多発骨折



S状結腸癌を取り巻く血管



第26回

# 開放型病院連絡会開催報告

日時：平成29年9月13日(水) 午後7時～午後8時30分 / 場所：国立病院機構熊本南病院 リハビリ室

## ▶糖尿病教育入院について

国立病院機構熊本南病院 代謝内科 野田秀幸

2週間の教育入院の目的は①糖尿病教育 ②食事指導 ③血糖コントロール ④合併症検査の4つです。指導は医師、看護師、栄養士、薬剤師で協力して行い、食事はカロリー、塩分量を栄養指導と入院食の摂取で覚えて頂きます。血糖コントロールについては血糖日内変動、インスリン分泌量をみて、インスリン注射か内服か、どの内服が適切かを判断し、退院時の血糖正常化を目標とします。病型検査、合併症検査を腹部・頸部血管エコー、ABI/CAVI、神経伝導速度、心電図RR間隔、畜尿検査で行い、動脈硬化、神経障害、腎症のそれぞれの進行度(ステージ)を把握し、対処の方針ならびにコントロール目標を明確にします。(網膜症については入院前または退院後に眼科を受診して頂き評価します)初診の方には教育がメインとなり、病歴の長い方には合併症進行防止など、患者の状況に応じて入院目標は変わります。**わずか2週間の治療ですが、本人にとって5年後、10年後の人生を大きく変える2週間であると考えます。**

病診連携の流れは、かかりつけ医・健診から紹介→入院インスリン導入→退院後に逆紹介、またはインスリンを内服に変更し逆紹介などが一例です。現在熊本県では「糖尿病地域連携パス(DM熊友パス)」を推進しております。

糖尿病のコントロールでお困りの患者様がおられる際はご相談下さい。

### 糖尿病教育入院について

#### 2週間パス入院でおこなうこと

- ①糖尿病教育→疾患への理解を深め、アドヒアランスを高める
- ②食事指導→コントロール改善に最も重要かつ必須である食事療法の獲得
- ③血糖改善→インスリン強化療法等で糖毒性を取り、効果的な病態改善を行う
- ④合併症検査→ステージを把握することで目標を明確にし、病識アップを図る

#### 病診連携の流れ

- ・かかりつけ医、健診から紹介→入院インスリン導入など→退院後に逆紹介、またはインスリンを内服に変更し逆紹介

※その際、**熊本県糖尿病地域連携パス(DM熊友パス)**の利用も検討  
→(かかりつけ医定期通院+半年に1回代謝内科受診)

## ▶バイスタンダーによるAED使用で救命できた心室細動の一例

国立病院機構熊本南病院 循環器内科 福田仁也

CPA蘇生後で救急搬入となった75歳男性の症例。陳旧性心筋梗塞、冠動脈ステント留置後、冠動脈バイパス術後、発作性心房細動、糖尿病の既往がある患者様で12月某日、屋外で倒れているところを通行人が発見し、近くの店舗にあったAEDで店舗の職員が蘇生を行った。AEDの記録で心室細動による心肺停止であったことが確認できた。今回のイベントは陳旧性心筋梗塞に起因する心室細動が原因であると判断した。アミオダロン内服の導入と植込み型除細動器移植手術を行い、以降の経過は順調で特に後遺症も無く退院の運びとなった。以上の結果より、心室細動発症後、電気ショックが1分遅れるごとに救命の可能性が約10%ずつ低下すると言われている。

本症例では救命の連鎖“chain of survival”の一連の行動がうまく働いたことが、救命・社会復帰へつながったと考えられた。

熊本南病院循環器内科では心不全、不整脈、心虚血疾患、高血圧などに力を入れています。心エコーなども積極的に行っており、ご利用頂きたいと存じます。よろしく申し上げます。

### 考 察

1. 心室細動発症後、電気ショックが1分遅れるごとに救命の可能性が約10%ずつ低下する。
2. わが国では、市民により目撃された突然の心停止のうち、救急隊が電気ショックを実施した場合の1ヶ月後社会復帰率は17.9%で、バイスタンダーが電気ショックを行った場合は35.8%と約2倍であったとの報告がある。これは、バイスタンダーが救急隊の到着前にAEDを用いることで、より早く除細動が実施できたためと考えられる。
3. 本症例では救命の連鎖“chain of survival”の一連の行動がうまく働いたことが、救命・社会復帰へつながったと考えられた。





1. **手や足が突然、動かない、あるいは痺れる** 脳梗塞が疑われます。4、5時間を越えて超急性期のrt-PAの治療適応でない場合や脳外科的治療の必要の無い場合は当院での対応が可能です。是非、疑われた場合はご紹介下さい。また悩まれる場合は電話でご一報頂きご相談頂ければ幸いです。
2. **意識レベルの低下 あるいは痙攣** 脳外科的対応を必要とする脳出血あるいは、ICUでの管理を必要とする脳炎などは3次救急病院での治療となりますが、搬送を迷われる場合はご連絡下さい。
3. **頭が痛い** 難治性の慢性頭痛や髄膜炎を疑う症例、それに2次性頭痛などを疑われる場合はお気軽にご相談下さい。
4. **ふらつき、眩暈** 小脳梗塞と鑑別が必要です。悩まれる場合は、頭部MRI検査が大きな力を発揮します。是非、ご紹介下さい。
5. **手の震え** 生活に困られるようでしたら治療の適応があります。鑑別診断から治療まで可能です。
6. **動作が遅い、歩きにくい、喋りにくい** パーキンソン病やパーキンソン症候群を疑う場合があります。L-dopa投与で症状が速やかに消失する場合がありますが、約5年を経過すると治療に難渋することが殆どです。このような場合にもお気軽にご相談頂ければと思います。
7. **脱力** ALSを代表する運動神経疾患、神経難病は当院で多くの患者さまが当院で闘病を続けておられます。疾患を疑われる症例、また当院での加療を希望される場合はご紹介下さい。
8. **物忘れ** いわゆる認知症の他に治療可能な2次性の認知症が多数あります。正常圧水頭症などの他、多数の疾患が鑑別にあがります。疑われる場合は、是非、ご連絡ください。

神経内科としては、地域の先生方の日常診療をお助けする立場として様々な症状の患者さまの対応を行っております。是非、お気軽にご相談頂ければ幸いです。

## こんなときは神経内科へ

1. 4、5時間をこえて脳梗塞 疑い
2. 難治性頭痛、二次性頭痛 疑い
3. 小脳梗塞が否定できない目眩
4. 手足が勝手に動く（手の震え、ふらつき）（本態性振戦、脊髄小脳変性症など）
5. 動作が遅く、歩きにくい（パーキンソン病など）
6. 喋りにくい、飲み込み辛い、脱力（ALSなど）
7. 物忘れ（認知症、2次性認知症など）

## 第27回 開放型病院連絡会開催のお知らせ

日時 平成30年2月7日（水）午後7時～午後9時30分

場所 ホワイトパレス

特別講演 熊本大学大学院 代謝内科学教授 荒木栄一 教授

意見交換会

